

Visit & Feel JAPAN Tour in 2018 Winter 感想文

黄 敘聿(ファン・ソユル)

慶熙大学校 言論情報学科 2年

Visit & Feel JAPAN は、普段から日本の文化に疎い私に、多くのことを学ばせてくれたプログラムだった。以前、大阪や京都など日本を旅した経験はあるが、ここまで「日本を勉強する」という心構えで旅に挑んだことはなかった。日本だけではなく、旅に出る前に旅先について事前に調べて勉強してから行った方が断然楽しく充実した旅になるということに気付いた。特に、ガイドさんがどこに行ってもその地域について説明をしてくれたり、移動中も眠っただろうに、欠かさず説明をしてくれて、とても感謝する。

札幌に着き、「雪国に来た！」と思わずつぶやいてしまった。飛行機から見えた白い風景はいまだに忘れることが出来ない。こんなに雪が積もっているにも拘らず、ソウルより暖かく、それが札幌という都市をよりロマンチックに感じさせてくれた。

プログラム中は、2回の大きな発表のシーンがあったが、テーマが少し難しかった。大学生という立場から、国の大きな行事であるオリンピックについて考えるのは限界があるように思えた。それでも、このプログラムの趣旨に合わせて、文化交流という答えを導きだしたが、他の参加者も同じよ

うに悩んだらしく、文化交流についての発表が多かった。やはり、ここまでたくさんの発表があったということは、それほど大事だということなんだろうなと思った。

このプログラムに参加して、特に良かったのは、直接体験しながら文化を学べたということだった。アイヌの民族舞踊を教してもらいながら一緒に踊ったり、よさこいを日韓大学生が一緒になって体験したり、佞武多祭りの体験まで、このプログラムでなければ体験できなかったこの全ての経験が本当に楽しかった。また、この体験を通して日本文化に親しみを感じるようになったと実感した。

個人的には、出発の時に全員が集まって一緒に行動しないことに少し驚いた。定時に空港に着いたが、みんなが荷物を預けに行っていなかったのが、戸惑った。幸い、偶然参加者の一人と合流し、手続きを行ったが、彼女に会えなかったら、一人で戸惑っていたかもしれない。また、日程がつまっていて、仕方ないかもしれないが、自由時間がもう少しほしかった。札幌の景色をもう少し余裕をもって楽しみたかったが、自由時間が足りなかった。

色んなことから、V&F は本当に素晴らしいプログラムだと思う。友人に必ず参加を勧めたいと思った。食事や宿泊先も全て私たち参加者をとても気遣ってくれていると感じた。おかげさまで、素敵な友達と先生たちを素晴らしい所で出会えたので、札幌

での思い出は永遠に記憶に残ると思う。素敵な思い出を作ってくれた日韓経済協会と5泊6日間私たちを引率してくれた先生たちに感謝の言葉を伝えながら、感想文を終えたい。

崔 度還(チェ・ドファン)

高麗大学校 ディ스플레이半導体物理学科 2年

生まれて初めて訪れる日本を、今回のプログラムを通して経験できたことは、本当に大きな幸運だった。個人の旅行では、したくてもできない経験がたくさんできたからだ。例えば、札幌市役所を訪れたり、駐札幌大韓民国総領事館を訪れたり、北海道大学の学生たちと交流したりと、今考えてみると、誰もができない貴重な経験だった。

だからか、心残りも多く、申し訳ない気持ちもある。その理由は、正直に言うと、当初このプログラムに申し込んだ時には、ここまで真面目なプログラムだとは思わず、軽い気持ちで申し込んだからだ。もう少し日本について調べて、発表する内容についてももう少し真面目に準備すべきだったと思った。

こんなふうと思うようになった最初の瞬間は、札幌市役所を訪れた時だった。私たちは、軽い気持ちでいくつかの発表を行ったが、市役所の方は私たちの発表内容を一つ一つ書き込みながら、とても真剣に聞いてくださる様子を見て、感謝の気持ちと同

時に、もう少し時間をかけてより良い発表にすれば良かったなど後悔が残った。

三日目からは主に観光の時間が多かったが、小樽での自由時間が一番記憶に残っている。ほとんどの参加者たちはオルゴール堂や運河を観に行っただが、私と何人かは港が見渡せる神社を探して行った。神社からの景色は、なんでみんな運河にばかり集まるのだろうと思うほど素晴らしかった。また、夕方には、日本の3大夜景と呼ばれるという函館の夜景を観に行っただが、霧のせいで霞んでいたりまだライトアップが完全にされていなかったにもかかわらず、目を離せないほど美しかった。見ているだけで心が満たされる気持ちになった。プログラム中は、海の景色もたくさん見ることが出来たが、私は個人的に山からの景色が好きなので、小樽の運河より神社から見渡した風景と、ロープウェイに乗って登った函館山からの夜景がとても美しいと感じた。

そして、日本は、韓国に比べて面積が広い
ため、広々とした風景がとても気持ち良
く感じられた。また、日本を旅しながら、
日本人は本当にマナー(おもてなし)を大事
にしているんだなと感じた。街にはゴミひ
とつ落ちていなかったし、ホテルを出る時
には、私たちの姿が見えなくなるまでホテ
ルのスタッフさんたちがお辞儀をしてく
れ、少し戸惑いながらも、本当に私たちを
配慮してくれているんだなと思うと嬉し
くなった。

旅行が終わる頃には、いくつかの後悔が
頭から離れなかった。もう少し日本につ

て調べて、日本語を勉強して来ていれ
ば、地域住民とよりたくさんの会話も出
来て楽しかったらいいのに。またいつも
同じメンバーで行動していて、他の参加
者たちと仲良くできなかったことも心残
りだ。だからか、最後の日、みんなで集
まって遊んだ記憶がいまだに頭の中で
ぐるぐる回っている。やっと親しくな
れたと思った時には、プログラムが終
わったのでとても残念だった。もし、
来年、私の勧めで友人がこのプログラ
ムに参加するのなら、最初にみんなと
仲良くなってね、と伝えたい。

裴 允珠(ペ・ユンジユ)

高麗大学校 新聞放送学科 2年

その時であんければ二度と経験できない
ものがある。その時間、その場所、その
人たちと一緒に感じられない感情もあ
る。2018年1月は私にとって、とても
多事多難な時だった。大変な時を乗り越
えて迎えた2月の第1週目を日本で過
ごせたこと、素敵な人たちと一緒にた
くさんの経験ができたことは、人生二
度とない幸運に恵まれた時間だったの
ではないかと思う。

留学の面接と重なってしまい、紆余曲
折の末、辿り着いた札幌だった。どち
らも諦められなくて、精一杯二つを同
時に準備した。出発が遅れたから、き
っとみんなと仲

良くなるのは大変だろうなと覚悟なら
ぬ覚悟をしていた。しかし、みんなは
とても優しく配慮に満ち溢れた同期
たちだった。V&F同期と一緒に過
ごした私の誕生日、そしてサプライ
ズパーティーは一生忘れられない
と思う。2月27日にみんなと再会
を約束しているけれど、その日まで
が待ち遠しい。

何より感謝したい方は、大事な経験
をプレゼントしてくれた日韓経済協
会の関係者の方々、特にゆうじょん
先生と木本先生だ。急な出発遅れだ
ったにも関わらず、親切に対応して
くださった二方に心から感謝してい
る。おかげで、とても貴重な経験を
する

ことができた。

今回の日本ツアーで感じたことの一つは、思ったより日本と韓国の交流のために働いている方が多いということだ。日本と韓国の経済交流のために日韓経済協会、そして私たちが訪問した領事館などなど、至る所で「交流」が行われていた。また、思い返せば、子供の頃、日韓文化交流の一環として開かれたお絵かき大会で何度か入賞した経験がある。一体、「交流」とは何もので、こんなにたくさんの方が努力しているのだろう。私は、「交流」とは、つまり問題解決のための疎通の出発点だと思う。たくさんの方から小さな意見が集まり、世論というものが作られる。子供たちのお絵かき大会交流、そして国の重大な問題である経済交流など、様々な交流が集まり、国同士の関係を形成し、お互いを見つめる目線が決められる。



北海道大学の学生たちの賑やかなよさこい踊りを見ながら、青森の巨大な立佞武多を見ながら、私は日本に対して、どんな目線を持つようになったのか考えてみた。一つ確かなのは、以前より私は日本に対する深い知識を持つようになったこと、また将来私が勤めたいと思っている文化事業で、日本を見習いたいと思うようになったことだ。もし、「交流」の目的がこのような知識の向上を通じた認識変化、そして行動の変化を導く一つの種をまくことだとすると、今回の V&F は、私にとって、そして日韓交流にとって大いに成功的なものだったと言えるだろう。

一人で成せることは何もない。私たちの6日間の communication が私の世界に対する目線を変えてくれたことに感謝し、ひいては、韓国と日本の調和に小さな礎になることを祈ってみる。

